

科 目 名(Subject)	近代経済学説史 (History of Modern Economics)		
単 位 数(Credits)	2 単位	開講時期	前期
担当教員名 (Name)	江頭 進 (Susumu Egashira)	研究室番号 (Office)	409
Office Hours	火曜日(12:00～13:00)		

1. 授業目的・方法(Course objective and method)

19 世紀末に勃興した近代経済学は、その後様々な経歴を経ながら、現代の経済学の姿となった。しかし、その過程で多くの重要な要素が抜け落ちてきた。本年度の授業では、近代経済学の歴史を、進化論および進化経済学の視点から再考することを目的とする。特に 19 世紀の方法論争では何が問題とされたか、さらにハイエクが提示した知識の問題が、近代経済学の中にどのように取り込まれたのか、といった具体的なテーマを参加者全員で検討する。

2. 達成目標(Course Goals)

経済思想史・学説史の基本的な考え方，18 世紀から今に至るまでの代表的な経済学者の理論・思想，バックグラウンドを理解することを目的とする。さらなる研究を望む場合は，経済学史の方法論の基礎について身に着けることとなる。

3. 授業内容(Course contents)

第 1 回～7 回 進化経済学および社会科学における進化論の文献の購読
第 8 回～10 回 近代経済学史の概観
第 11 回～15 回 近代経済学における進化経済学の位置づけの検討。

4. 事前学修・事後学修(Preparation and review)

第 1 回 事前学修 西部忠・吉田雅明編『進化経済学』第 1 章を読んでレジュメの準備
事後学修 現代進化経済学の狙いをまとめる。
第 2 回 事前学修 同上第 2 章を読んでレジュメの準備
事後学修 進化経済学の社会の捉え方を理解し，まとめる。
第 3 回 事前学修 同上第 3 章を読んでレジュメの準備
事後学修 複製子と相互作用子による経済理解の方法をまとめる。
第 4 回 事前学修 同上第 4 章を読んでレジュメの準備
事後学修 時間・知識・制度に関する進化経済学的な理解をまとめる。
第 5 回 事前学修 同上第 5 章を読んでレジュメの準備
事後学修 複製子・相互作用子による進化経済学的モデルを理解する。
第 6 回 事前学修 同上第 6 章を読んでレジュメの準備
事後学修 進化経済学による分析の実例を理解する。
第 7 回 事前学修 同上第 7 章を読んでレジュメの準備
事後学修 進化経済学的観点から導き出される政策を考える
第 8 回 odgson, G. Conceptualization Capitalism 第 1 章を読んでレジュメの準備
事後学修 Hodgson の制度に関する考え方をまとめる。
第 9 回 事前学修 同上第 2 章を読んでレジュメの準備
事後学修 法的制度による社会既定の概念をまとめる。
第 10 回 事前学修 同上第 3 章を読んでレジュメの準備

事後学修 制度としての貨幣についての考え方を理解する。

第 11 回 事前学修 同上第 4 章を読んでレジユメの準備

事後学修 所有と経営の分離に関する旧シカゴ学派の考え方や資本主義の分岐点をまとめる。

第 12 回 事前学修 同上第 5 章を読んでレジユメの準備

事後学修 生産と消費に関する考え方をまとめる。

第 13 回 事前学修 同上第 6 章を読んでレジユメの準備

事後学修 賃金労働と労働契約についての制度主義的理解をまとめる。

第 14 回 事前学修 同上第 7 章を読んでレジユメの準備

事後学修 財政・金融システムについての考察をまとめる。

第 15 回 事前学修 同上 第 8 章を読んでレジユメの準備

事後学修 テキストに現れた経済学者の考え方を通史的に理解する。

5. 使用教材(Teaching materials)

西部忠・吉田雅明編『進化経済学』、日本経済評論社。

進化経済学会編『進化経済学ハンドブック』、共立出版。

Hodgson, G. Conceptualization Capitalism, Cambridge University Press, 2015.

6. 成績評価の方法(Grading)

参加者は毎回、テキストの担当部分の報告を行うが、その際に単にテキストのまとめをおこなうのではなく、他の参考文献なども参照しながら、参加者全員に納得される報告を行わなければならない。成績評価は、何回か行われる報告の完成度の評価に基づいて行われる。

7. 成績評価の基準(Grading Criteria)

経済学科の基準に従う

8. 履修上の注意事項(Remarks)

- ・学部レベルの経済学史あるいは経済思想史を履修していること。
- ・Intermediateレベルのミクロ・マクロ経済学を習得していることが望ましい。